

松野勇雄 つたつ 國學者。嘉永五年三月二十九日備後國瀨調郡三原生れ、  
明治二十六年八月六日歿（八五二一九三）。講尚止、幼名秀吉、通稱榮、  
盛枝、達志。號東海、正志男、平正志男。安政六年から二年間父より  
皇典を學び、翌年から十年間宇都宮龍山、岡田筆山、吉村斐山に就き、  
漢學を修めた。慶應二年藩費明善堂教授讀拜命、明治二年「稽古千字文」  
刊行（慶應元年十四歳の著述）。六年上京して平田鐵胤に入門、  
大教院編輯掛となる。九年「祝詞文例」上編五冊刊行（下編三冊明治  
十八年刊）。十五年皇典講究所設立に携はり、事務局に在りて創建係  
に任じ、全國遊説等に奔走。設立後は實質的經營に當つた。また「古  
事類苑」編纂にも從事。二十一年同志と謀り「日本文學」創刊（のち  
「國文學」と改題）。二十三年國學院設立の際し、山田顯義の名で公  
表せられた趣意書を起草（三上參次が加筆、井上毅が文辭修飾を成し  
たといふ）。第一回卒業式參列後、かくはく 幾許ともなく病歿。  
三矢重松著「松野勇雄先生」（大正十一年十一月五日松野夫人三十年  
祭世會）がある。

